

## オクトリカブトの北海道分布・その後

千歳市 五十嵐 博

### はじめに

オクトリカブトは、道南の低地や低山地に生え、やや質の厚い切れ込みの浅い葉をもつ(門田 2003, 門田・西川 2016)ことが特徴である(図 1)。本誌 23 号でオクトリカブト *Aconitum japonicum* Thunb. subsp. *subcuneatum* (Nakai) Kadota の分布を報告(五十嵐 2006)してから 12 年が経過し、



図 1 オクトリカブト 2017.9.8 函館市

その後確認した産地もかなり増加したので、最新の分布状況を報告する。

### 分布

門田(2003)や門田・西川(2016)によれば「オクトリカブトの分布域は石狩地方を北限として道南に分布し、本州の太平洋側で群馬県、日本海側では新潟県にまで及んでいる」とされる。

筆者の 1989 年から 2017 年までの 28

年間の確認記録を 2.5 万分の 1 地形図名で北から列記すると、余別・豊浜・余市・小樽西部・小樽東部・神恵内・張碓・銭函・札幌東北部・札幌・島古丹・長都・胆振蘭越・永豊・本目・須築・虻田・太櫓・室蘭①・久遠・貝取潤・落部・熊石・渡島鮎川・相沼・ササマクリ山・乙部②・白尻・江差②・館・陣屋・七飯・上ノ国・桂岡・茂辺地・函館・五稜郭・鉄山・石崎・湯ノ岱・立待岬・戸井・原口①・原口②・江良①・江良②・松前①・渡島福島①となり、図 2 に●印で示した。

各地を見ている印象では海岸近くに生育する傾向が顕著である。石狩地方では、淡黒丸印で示した札幌・札幌東北部・胆振蘭越・長都(長都は過去にも見えていたが新たな産地を 2 ヶ所確認した)が新しく確認された。

札幌での確認は北海道大学構内、札幌東北部は札幌市北区ペケレット湖園、胆振蘭越は千歳市烏柵舞孵化場付近の沢と長都の防風林などであった。

### 移植の可能性

知里(1953)では、「尚、古来、石狩国銭函のトリカブトの根は強いとされ、遠く日高や胆振からまで採りに来てそれを移植したとも伝えられている」とトリカブトの移植を報告している。銭函のトリカブトは